

クジラの 子らは 砂上に 歌う

Presented by the author
Published by request from
BONITA & COMPANY

梅
田
阿
比

BONITA

クジラの子らは
砂上に歌う 1

梅田阿比

whale calves sing on the debris

● もくじ ●

第1章	砂の海のチャクロ	3
第2章	来訪者と反抗者	49
第3章	追憶が瞬く空に	95
第4章	使者の爪先	143
あとがき	「クブラの手ら」を見つけたお話	188
	広鍾保の日記による図解「泥クブラ」	190

刊出

「ミステリーボニータ」

13年7月号～11月号掲載

この作品はフィクションです。
実在の個人・団体・事件等には
いっさい関係ありません。



砂の海の天ヤクロ

第1巻





我々は
星を導き
天を計る

偉い我々の
行く末を
占った

今、あなたは
星を導き
星に導き添い
天を動かす



あなたは
偉い
星を導き
天を動かす







砂林暦93年
7月2日

ベニヒ印の
西暦

享和2年
教習家29

徳島は
ムシイロギウ

ヒゲ広場
にて砂林





私たちは
死者を
砂の海へ送す

いっしょに



この時、死者を
送る者は
涙を流しては
いけないという



砂の底に眠る
とくさんの魂に呼ばれ
早く砂に
召されてしまふのだ



果ての無い
時の海を漂う
私たちの運命

人口は現在約1人

4214






WILEY

ササキ



私のこの
記憶したい
前髪は
高まっていく



「無敵」だった
祖父のいうには私は
ハイパーグラフィア
（造物の神）
なのだというんだ



「ハイパーグラフィア」の
神童な記憶が
残っていたのは



私は何があっても
ここに居るからと
言ってくれたからさ







人の笑にいちいち
腹いませせていたら

あたし連印は
悪やから
なきていけな

……うん

……じゃあ
……お別れ
……お別れしてへん

印とは
感情が豊厚といわれる
情念動を使つ
能力者のこと

近タジラの人達の
釣り針がそうだと

印は
昨日帰った
ベニ石の上で

……皆
……姫
……姫である

印の人口は
現在偉人



















苗圃や農事会の人達など
サイミアを
神たない奴らは

無印と呼ばれる

無印の現在の
人数は54人

二三十代には
多くがこの世を去って
しまふ印とは違い

彼らは
楽々ジラの
リーダーとして
生きていく

ヌオウ
いますか？

無印の人たちは
異国である







スオウは
近々ジラの
実験結果と
いわれている

あなたは
印の人たちの
寿命を延ばす
ための研究も
続けている

印より
印の寿命を
延ばしています

本日は俺なんかより
ずっとたくさん歳を
減らして貰えます



この人々は
感情が表に
出そうなのは
こうして
顔を触る



情感を
こらえているのだ



スオウ



俺はバカだから
大量の記録を
書きなめること
しかできない









約半年ぶりの
あです

あへ顔面へ
触るものは
これですの
原因からすると
五日以内

それは縁は
原因が隠れて
原因になる

明日まで
休養を
向かわせよう

では……

その後安全
ならば
物質関連を

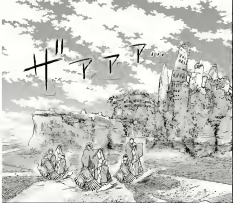


物質の
人達は明日までに
ヌオウが
してください

はい



ザアアア...



なんで
宿敵に
ササグササ...



あーあ

トラアルが
なさやいいけど



宿敵は
危険かもしれないに
しろ今はまだ
ササグササだよ

お兄ちゃんに
あたしを
助けてくれる
のよ...



えっへん！

いっけえー！





砂の海へ出ると
サイミアを
使わなければ
船も人も砂に飲まれ
底へ沈んでしまう

サイミアを浮かせ
運ませるために

サイミアを使うと
全力疾走と同じほど
体力を消耗する

だから進むことの
できる距離は
限られるのだ

僕んだものは
どこへ行って
しまっかな
わからない...









それでも
どこにも
人はいなかった

人を使う
物だ
今までも
他の人が
使った物が
残っている
鳥はあつた















彼女がこの時の
状態を

人間とって
よいのなら……
だが



少女、リノスと

私と



私たちの船の
群衆な影が
残っていたのは

私は何があっても
私たちに離れようとは
書き続けたからだ

図録①

砂の海:

海クジラを取り囲む巨大な砂ばかりの海。
海がどうやってできたのかは謎解き中。
かつてあった文明が滅び、その世界を構成するもの
すべてが瓦礫や砂粒となったといわれている。

砂の海からは数々の
文明の遺物が浮れてくる。
それらがどこから来て
どこへ流れていくのか。
それはわかっていない。

そして、砂の海へ沈んだ者は
二度と生きて戻ることはない
といわれている。

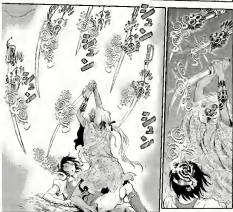




來訪者と反抗者

第2節















あいつ
チヤクロ
とこ行った...





私たちは
鳥の巣箱を
急ぎと持ち上げ

その少女を

私たちの鳥
の巣箱に
連れて来る
ことにした

彼女は
命を失うほどに
衰弱してあり

食物が必要だと
判断したからだ

仲間の人……

やえ
この海賊
船をあげて
くれない？

うん

この空海——
だいふ時間が
たつてるみたい





私たちの
間にあんな
小さな世界が
ある

この世界が



起きて…

きつね
いいことがあるわ

私たちの罪もが
見も知らない未来を
運んできてくれる
のかもしれない

私たちは無罪の
心はずんでいた

とりわけ最初に
彼女を見つけた
私にいたってば――

いたってば……

どうして
罪を犯さなければ
ならなかったのか



どうして
早かったでや
ないか

タチバナさん

緊急事態だよ

へへ

すげえもん
拾った



なに??











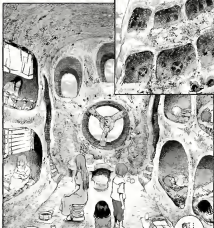
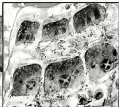
一人に
おしよる



 DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICES









「到底」なる
前くらいには
サイミアの能力も
体力も落ちてきて

落ちたきりに
なる人もいる

個人差も
あるけどね



その原因でも
さうさ



…そんなの
ないわ

……うん……

「フアレナをの……」











「あんな
長い時間
待たずに
帰るす
ことあり

「あんな
長い時間
待たずに
帰るす
ことあり



「あんな
長い時間
待たずに
帰るす
ことあり

「あんな
長い時間
待たずに
帰るす
ことあり









砂の海の外に
別の世界が
あるなら

こんな
ちっぽけな
船なんか
捨ててやる



オウニは
体内モグラの
リーダー格で

サイとアの
能力は
迷宮だらけで一番だと
言われている







「おれさまや
おれさまが
いない…」

「おれさまや
おれさまが
いない…」

「おれさまや
おれさまが
いない…」



「おれ
さまや
おれさまが
いない…」



「おれ
さまや
おれさまが
いない…」





何の故…



私に尊厳を
するなら…

先に私の尊厳に
奪われてください

…



「フアレナ」ですか？

…論じられない

意の目的が
はつきりしない
のであれば…



我々も
我々の正体を
明かすことは
できないのだよ



















オウニが
いけないう

世に
触れたら

奥の
手を……





私は……

リコスに類する
世界を
知りたかった



私は
オウニの
この世界を
実際に
見ることにした



もう一度
リコスの
星へ！

そこに存在する
事実も知らずに

逃げていく

第3巻
追憶が映く空に





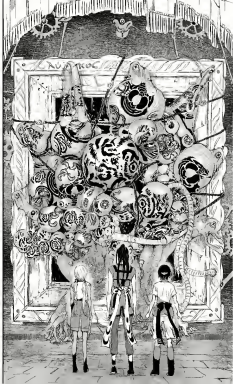
















感情をこの「リクス」の宝庫分として吸収していた

私たちは...この地の民士は...

だから私たちの心はのっぺらぼう



...



我らは天から降来したといわれている

我らを見つけた人々は感情を我らに預けることにした

人々は立場や身分によって多かれ少なかれ

感情を我らに付与するの

人の感情は
世界を滅ぼすから

必要のない
ものだから

あなたが
知っている
外の世界は……

感情の連鎖を
人間が

心のない
人形兵士を使って

いつ終わるともしれない
戦争を続けている……

そんな世界





俺はかまわない

戦争だろうが
なんだろうが……

俺タジラにこのまま
閉じ込められるのは
ごめんだ

あそこから
出られるなら……

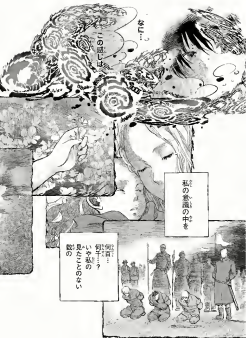
俺の感情なんか
いくらでもくれて
やる……

あっ

オウム……

だめ
をな……

ばっ



「おれは」

「おれは」

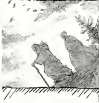
私の意図の中を

何百...
何千...
いや私の
見たことのない
敵の



人間の心が

よきうては
消えていった



この混沌は

過去の我の私が
書く事に自分を
抑えられなく
なる時の

駆け巡る
記憶の情景に
少し似ている

スミレ……

ため
これは
庫の……

ダメだ

……







「クジラからの
這う手が島に着いた時」

「私は
放心状態だった
という」



「私たちは
「リコスと共に」

「私とオウニは
長年分の
難問を受けたが

「オウニはなににも
勝たず

「私も
リコスの命を奪えて
…なににも見返りしな
かったことにした



「クジラへ
手を届さず

「その後
長年分は

「リコスの命への償い
島からの漂流行も
一歩踏みと決めた



リコは
中央塔へ
脱走され

秘とオウニは
顔として
体内に取りこまれ
目が通った

オウニは
……大丈夫だった？

その後
ボウって
なっちゃって……

でも、頭がガラに変わった
平気になった

秘
あのとき
おかしなもの
見たんだ

あれ……ほんとに
心を脱っちやう生き物
なのかな





私たちも記憶力が
何年かかけて
植物にのびていく
データから推測すると

今晩
原始現象が
見られるという



エウジラの原始の
群の属には
「シンギンバツタ」と
呼ばれる
大蛇をバツタが
生息している



シンギンバツタの群れは
その群れでの個体密度が
上がる



原始群れに属した
群へと世代をかけて
変化していく

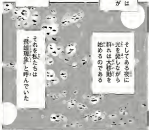
群れは
巨大な群れを
形成し

エウジラから出る
原始群れなどをあべて
暮らしている



そしてある夜に
光を放しながら
群れは大移動を
始めるのである

それを私たちは
原始現象と呼んでいた



























その目で
遠くとは
別れることに
なっていたけど

私たちは
皆、感情を少しずつ
切り取られていたから

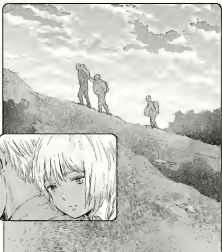
別れに
大した感情を
覚えることも
なかった

家へ行く道は
長く狭く
荷物も重かった

立ちなさい

そんなことでは
兵隊にはなれない







あれは
俺があの時
見たのは

リコス…

俺は
見たよ

あの生き物の
中で…

その時の
君を…

……

ずっと…
どうでもいい
ことだったのに！



リコエ



なぜ
こんなに
悲しくなるの…



悲し
ちやんと
心がある
じゃないか



同じだよ
俺たちは
おんなじだ



……………

ねえ
いつか泥ダジラは
砂の海をのぞいて……

悲の家族のところへ
たどり着くかも
しれない

それに泥ダジラでは
兵士になつて戦つて
死んでやつたりしない

リコス
これから
一緒にここで
暮らそう？





船は！

あなたたちに
言わなければ
ならないことだ...

この船は！

船は！

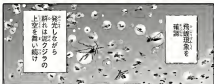
「フアレナ」は！

わあっ











私の記録として
公衆の記録は



ポト

この日が
最後になった



この先の
運命にまつわる
記録は

私の個人的な
「日記」である

◎記録係のメス◎

記録②

情念動(サイミア)

家ケジラの間、印たちが持つ能力のようなもの。印たちはこの能力を使い、砂の海での狩りや物資輸送をおこなう。

“サイミア”とは感情を表す語であり、この能力を感情のまま使うことは、家ケジラではタブーとされている。

急紋(アウラ):

サイミアを使う者の身体の表面に現れる発る光線。頭上にも同じ光線が浮かびあがる。この光線の現れる面積が大きいほど能力が高いと言われている。

「タジラについて
私が書きたいことは
たくさんある」

「手し、筆みそ
書き置き
書き置き
おもしろいような
本の感じ」

「武蔵の人たちが
書きすぎた
生きてきたこと」

「私たちの生活は
砂と塵の光と
共にあった」

「風の日に
海からの砂は
舞い上がり」

「タジラへ
はげしく
書き付けた」



私たちの眼へ
張り付く



砂は
城の内部まで
入り込み



陽の光が
差し込めば

白く
輝いた



城の壁も
崩れ落ちた
砂の付着した
人々の足も



この島が
私たちの大敵を
世界のすべてだった



こんな光景が
繰り返される



使者の爪先

第4節

























明日の
引越以上の者は
全員の参加の
強制となる

我々も
その場に居るから
出席者の
一員となる



何ラジラの歴史と
世界との繋がりについて
知られるという

言葉に
為政権はなく

母の若者達に
受ける
近タジラの象徴
であればいいー



委員会への不満を
表すための
準備を立てる

この不安定な仕組みが
この島を動かしている
のだから



あと
19年……



あの少女から
見ればタダは
おもしろいでしょう



私はなにも
知らぬまま

それまでは
限り人間のままと
ですね！



私は
この下なので
あと22年
ですかね……



私が
長老かへ
入るまでです

え



タイン様！



人間のままと
……

よいでは
ないですか……



よくできた
偶像を演じ続け
なければならな
い
のです









あなた達は……



ん？

どれ
どっち？



あれ
你イルカかな



オオタロ



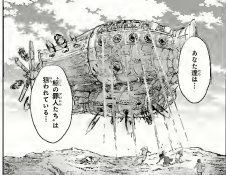
お……































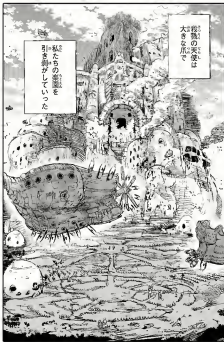






我々の天使は
大きな爪で

私たちの楽園を
引き裂がしていった











夏夕の月が
砂の海に
流されてから
93年……



● ● ●
● ● ●
● ● ●







戦うしかない



ついでにその夢いそんなあとがき「クジラの子ら」を見つけたお話

私はこのあかしを
日記のようなものを元に

漫画の表現を練りて
しようとしたのです

ごさるさるのひは
いのちをうさぎ屋さんで
商品に加工して売って
よいのです

（おまけ）
お母は隠すと
見つめられるの
を嫌いです

本場に「人なまは」
あつたのでしょ？
記録者の体験は想像も必要なのが
本来なのかも不明なのです
そんなへんてこりんな島の人々の
情ましい生活と短いお話



- ・チャクロ氏（仮名）の日記には写真や図画が全くなかったため、ビジュアルに関しては想像も人物も私の想像です。
- ・日記に出てくる人々の本名は、日本人には馴染みがない奇妙な発音でした。
元々色に由来する名前だったので、登場人物の名は日本の色名を用いて言い換えることにしました。
（チャクロは茶と黒、代経、南方、真内などは赤系統の色）
- ・日記の美濃の内容は編集し直し、物語として読みやすいようにまとめています。

次のページでは、本作の舞台“泥クジラ”を解説します！

記録係の図解『泥クジラ』

※泥クジラの図解などは作者がチャックロさんの記録をもとに勝手に想像したものです。

こんなと29
らしいです

中央塔:

中央塔には、長老会の人々の会議室や居住部屋があります。泥クジラでは、年長者は船底を待つ者として使われています。

第2塔:

長老格や長老の人々の居住部屋。他塔の人々の仕事部屋があります。

第4塔:

船底をみんなで見た人達の感情のある不思議な塔。

第3塔

第5塔

居住区:

泥クジラの住民たちの居住層が立ち並ぶ区域。彼が不在の印の子たちは這を作って共同生活を行います。

体内エリア:

泥クジラの中央内部には深い地下スペースがあり、ここは主に犯罪者などを罰として拘束する監獄として使われています。

貯水池:

銀タジラの家は通て定商所に送る雨水を貯めたもの、地上の池と地下の貯水タンクに生活用水を備蓄しています。ただ、水は貴重で好きに使うことはできません。

農園:

肉桂や東阿蜜などが広がります。砂の海から掘取られた土は栄養分をたくさん含み、収穫量は多いといえます。

ヒゲ広場:

砂の海への出入り口の中で一番重要な広場であり、葬儀などにも使われます。

オオマサゴチクの家:

専門棟の中間には竹藪が広がっています。竹は様々な用途に使われる。銀タジラでは大事な作物です。この竹は成長が早く年中竹の子が収穫できます。竹の子の味は甘辛やミルクのような甘さであり、とても美味だそうです。

専門棟:

家族室や工房などの施設が並んでいる建物。ここでの専門的な仕事に従事している人々の中には、終生ここに住みずここで暮らす者もいます。

では、また砂の海で待っています――



BONITA COMICS

クジラの子らは砂上に歌う①

平成25年12月30日 初版発行

著 者 梅 田 岡 比
©ALIMEDIA 2013

発 行 者 秋 田 貞 美

発 行 所 社 秋 田 書 店

〒102-8101 東京都千代田区船田横2-10-8

☎編集(03) 3265-7249 販売(03) 3264-7248

製作(03) 3265-7273

代表Eメール 03130-0-99353

印 刷 所 赤城印刷株式会社 Printed in Japan

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での固禁を
趣き禁じられています。本書を代行発行者等の第三者に依頼してスキャンや
デジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

(読／無断転載・放送・上巻・上巻・改訂・次巻送付)

ISBN978-4-253-26101-2

デジタル版 2014 年発行

製作所 デジタルカタバロト株式会社

<http://www.digital-catabalto.com>